術者も患者も楽に 新しいバキュームの形
エルゴフィンガー

私が勤めているつきやま歯科医院は、歯周初期治療やメインテナンスなど予防を歯科衛生士がメインで行う「口腔衛生部」、カリエスや補綴処置などを行う「総合診療部」、歯周病やインプラントや補綴などその分野に特化した「専門治療部」の３つの部署があります。その中で私は口腔衛生部に所属しています。

医療法人雄之会　つきやま歯科医院
（福岡県福岡市）
歯科衛生士　**山崎　千衣**

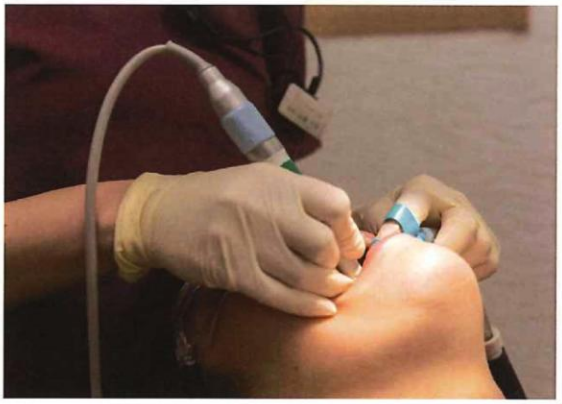
「口腔衛生部」の具体的な仕事内容は、初診の患者さん一人一人のリスクを調べ分析し、それに基づいた予防プラン・治療計画を立案・提案することで、自身の口腔内の状態を把握していただくのと同時に、生活習慣やセルフケアの見直し・改善、歯周初期治療を行い口腔環境を整えます。歯周初期治療では、ＳＲＰはもちろん、セルフケアやリスク部位の確認、ポケット内のバイオフィルムの除去を繰り返し行います。メインテナンスではリスクに合わせた間隔で、主に全身状態の問診、普段のセルフケアや自身のリスクの確認、患者さんでは取り除く事のできないバイオフィルムの除去を行います。

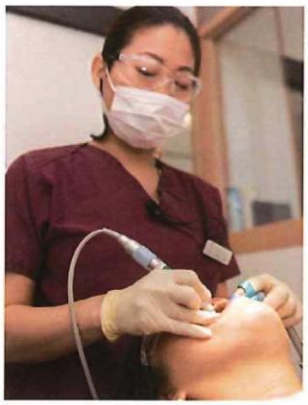
バイオフィルムの除去では、超音波スケーラーを使用するので、バキューム、排唾管の使用は欠かせません。通常のバキュームを使用する場合、部位によっては舌や頬粘膜を排除するので、バキュームを持った手に力が入り自然と脇が開き、腕が上がります。このような姿勢は体に無理があり、その姿勢が続くことで歯科衛生士は筋骨格障害を抱えやすくなります。
筋骨格障害とは、無理なポジション、手や指の小さな筋肉や腱に負担がかかりすぎる事、血管や神経、腱を圧迫する掌握や背屈、継続的な振動などが原因で、神経・腱・筋肉および支持組織に影響が及ぼされる障害の事をいいます。
特に歯科衛生士は首や肩こりなどが蓄積し、疲れやすくなり、診療においてのパフォーマンスの低下に繋がります。また、筋骨格障害を患うことは、歯科衛生士としての寿命を縮めていると言っても過言ではありません。

他にも、バキュームの使用時など無理な姿勢だけに限らず、ハンドスケーラーを用いて行う SRP 時などにも、知らず知らずのうちに指先や手首などの細かい筋肉に無理な力がかかる事でも起こり得ます。

当院センター長の築山鉄平が代表を務める PHIJ（Perio Health Institute Japan）では、力学に基づいた SRP 時の姿勢や術者のポジション、患者さんのチェアの角度や顔の方向、ストロークなどに関して無理のない姿勢で行う SRP のレクチャーも行っています。
通常のバキュームをエルゴフィンガーに変えると、ホースが軟らかいので、指を曲げて使用することができます。そのため粘膜や舌を排除するのに力がいらず、脇が開かず腕が上がりにくくなります。負荷があまりかからず粘膜も排除できるので、患者さんにも楽に治療を受けていただいています。
バキュームの先端部分は３段階に伸ばせるので、奥の方まで指で粘膜を排除しながら、吸引することができます。この事から超音波スケーラーを当てやすくなり、無理な姿勢でスケーラーを当てることも減ったので、肉体的にも効率よく診療を進めることができています。

私が歯科衛生士として長く診療に携わっていくためには、既存の形にとらわれず、エルゴフィンガーのように楽な姿勢で診療することが出来る器具を積極的に取り入れて、筋骨格障害を抱えぬよう、60 歳、70 歳になっても働ける生涯現役の歯科衛生士を夢見て、日々精進していこうと思います。


バキュームと同時に指で頬粘膜も排除


無理のない姿勢で処置にあたれる

エルゴフィンガー